

第32回日本小児整形外科学会学術集会開催報告

The 32nd Annual Meeting of the Japanese Pediatric Orthopaedic Association

会長 尾崎 敏文 (岡山大学学術研究院医歯薬学域 整形外科学)

Toshifumi Ozaki (Department of Orthopaedic Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

2021年12月2日(木)～3日(金)に第32回日本小児整形外科学会学術集会を開催致しました。当初は岡山コンベンションセンターでの開催を予定していましたが、COVID-19の感染拡大及び学会員が普段診療対象としている患者が12歳以下の小児でありワクチン未接種であったことなどを鑑み完全WEB開催に変更致しました(図1, 2)。

本学会のテーマは「子供たちに輝く未来を—Orthopäden für ein Kinderlächeln—」で、副題のドイツ語の部分は、「子どもの笑顔のための整形外科医」という意味で、まさに小児整形外科の存在意義であると考えました。日本小児整形外科学会は、1990年に「小児整形外科学に関する研究発表、連絡、連携及び研究の促進を図り、整形外科の進歩普及に貢献し、もって学術文化の発展に寄与すること」を目的に設立され、同年11月に、第1回学術集会が開催されました。ちなみに日本小児整形外科学会は東日本小児整形外科学会と西日本小児整形外科学会がひとつになったものですが、前身となります西日本小児整形外科学会、その第1回は1989年2月に岡山大学整形外科の田邊剛造先生が担当させていただいたことが記録に残っております。従い

まして日本小児整形外科学会の学術集会の開催は岡山大学及び同門では初めてとなりました。

本大会では特別講演として、本学会名誉会員であります日本心身障害児協会 島田療育センターの高山真一郎先生に「上肢先天異常の治療から学んだこと、貢献できたこと、伝えたいこと」と題して講演して頂きました。また、教育研修講演として、旭川荘療育・医療センター 整形外科/リハビリテーション科の赤澤啓史先生に「岡山大学小児整形外科の伝統と継承」と題して、これまでの岡山大学整形外科小児グループの歩みや世界に誇る手術法であります広範囲展開法等について講演して頂きました。文化講演としまして株式会社ミライロの垣内俊哉様に「バリアバリュー」という題目で、ご自身のこれまでのご経験をもとに力強く我々の心に響くご講演を頂きました。さらに、招待講演として、米国からSinai Hospital of BaltimoreのJohn E. Herzenberg先生に「Limb Lengthening and Reconstruction: is the External Fixator Obsolete?」を、オーストリアからOrthopedic clinic StolzalpeのReinhard Graf先生には「DDH in the world Hip sonography, technique and common mistakes, results

and politics」を、イスラエルからGalilee Medical Center/President Elect of Israeli Orthopaedic AssociationのHaim Shtarker先生には「Osteogenesis



図1 学会ポスター



図2 完全WEBでの学会風景

Imperfecta - Our Experience」を、韓国から Department of Orthopedic Surgery, Korea University Guro Hospital Seoul の Hae-Ryong Song 先生には「Technology commercialization of R&D occurring in university hospitals」を講演して頂きました。いずれの先生も世界的に著名なレジェンドであり、若い小児整形外科医から経験豊富な先生においても大変勉強となるご講演でした。

日本脳性麻痺の外科研究会との合同企画として「麻痺性側弯」についてのシンポジウムを設け、小児整形外科医が治療に難渋する麻痺性側弯の診断、治療について新しい取り組みや小児科医との連携の必要性など、活発な意見交換が行われました。また、日本小児整形外科学会スポーツ委員会との合同企画として、「野球検診の現状と課題」のシンポジウムを設けました。コロナ禍での検診の難しさなどの現状と課題、今後の展望などについて広く議論が行われました。その他、岡山大学整形外科および関連病院が力を入れてきた分野であります外傷領域から「小児骨折・骨端線損傷治療のアップデート」としてもシンポジウムを行いました。これからの診療に役立つ多くの情報を得ることができました。

例年の日本小児整形外科学会の懇親会は非常に盛況で名物ともいえるものでありますが、本大会で残念ながら現地開催できませんでした。しかし、十分に新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、大会初日の夜に WEB 会長招宴を、ZOOM を用いて開催いたしました（図 3）。新しい試みでありましたが、旭川荘療育・医療センター 整形外科の青木清先生に司会を行っていただき、会長挨拶・乾杯に続き、次期会長挨拶、イントロクイズなどを行い、岡山の地ビールを片手に短時間ではありましたが全国の多くの先生方と楽しい時間を共有することができました。

本大会全体では教育研修講演、文化講演、特別講演に加えて、シンポジウム 5 セッション、パネルディスカッション 5 セッションを行い、ランチョンセミナー



図 3 WEB 会長招宴の様子



図 4 学会終了後のスタッフ集合写真

として 7 つのご講演を頂きました。また、主題・一般演題も多数の演題を頂きまして大変有意義な 2 日間となりましたと思います。

最後になりましたが、第 32 回日本小児整形外科学会学術集会の開催に際しまして、準備・運営に携わっていただきました岡山大学整形外科関連病院の先生方、ならびに岡山大学整形外科のスタッフ、大学院生、医局秘書の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます（図 4）。

2021年12月27日受稿
〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1
電話：086-235-7273 Fax：086-223-9727
E-mail: tozaki@md.okayama-u.ac.jp